

日本原子力学会炉物理部会第 50 回全体会議 議事録

日時：2019 年 3 月 21 日（木）12:00-13:00

場所：日本原子力学会 2019 年春の年会 J 会場

（茨城大学水戸キャンパス 共通教育棟 2 号館 3F32 番）

（平成 30 年度下期分 審議及び報告事項）

【報告事項】

1. 運営委員会報告

部会長より運営委員会は開催されていない旨の報告があった。

2. 日韓サマースクールに関する 4 部会意見交換について（資料 50-01）

部会長より資料 50-01 に基づき、日韓サマースクールに対する今後の取組みについて 4 部会で意見交換した結果について報告があった。今後は、各部会が持ち回りで開催することとし、4 部会の参加を必須とせず、講師も含める形で任意で協力する方針に対して、特にコメント無く了承された。

3. 標準委員会と部会間の意見交換会について（資料 50-02）

庶務幹事より資料 50-02 に基づき、標準委員会と部会との意見交換会について報告があった。標準委員会から意見交換について打診があった際、メーリングリスト等を用いて部会の意見を募集することとし、結果については全体会議で報告する方針について説明し、特にコメント無く了承された。

4. 炉物理部会人材 WG の活動状況について（資料 50-03、資料 50-04、資料 50-05）

北大千葉先生より資料 50-03 に基づき、教科書サブワーキングの活動状況について報告があった。炉物理に関する教科書を 2 部構成にて作成中であり、第 I 部の著者の紹介があった。9 月末を目途に草稿を作成中であり、次回の全体会議にて報告ができる見込みとの報告があった。部会員より第 2 部の発刊時期について質問があり、部会長より既に作成済みの教科書を利用することも想定しているとの回答があった。また、各章で記載が重複する可能性があるため調整が必要との意見が出されたが、重複を敢えて許容することで読者の理解が促進される面もあるため、用語の統一については実施するがその他の重複等については、許容する方針を確認した。その他の調整についてはメーリングリストを用いて行うことを確認した。

JAEA 多田氏より資料 50-04 に基づき、データベースサブワーキングの活動状況について報告があった。夏期セミナーのテキストを中心に部会 HP 上に公開する手続きを進めている旨の報告があった。今後は、大学の卒論、修論等についても対象としたいため、各機関に対して協力依頼があった。また、企業に対しても可能な範囲での協力依頼があった。

JAEA 辻本氏より資料 50-05 に基づき、研究炉サブワーキングの活動状況について報告があ

った。現時点では、核特性の研究を主とする臨界集合体を対象としているが、照射試験炉についても検討すべきとのコメントがあった。提言内容に対するコメントについては、部会メンバーリストまたは辻本氏に送付して欲しいとの依頼があった。

【審議事項】

5. 炉物理部会細則及び運営小委員会細則の改定について（資料 50-06）
庶務幹事より資料 50-06 に基づき、細則の改定について提案があり、炉物理部会細則及び運営小委員会細則の改定について了承された。
6. 平成 30 年度決算について（資料 50-07）
財務小委員会担当幹事より資料 50-07 に基づき、平成 30 年度決算について報告があった。主な支出として PHYSOR2018 への旅費の補助（16 万円）及び RPHA2019 準備金（50 万円）であることが報告され、了承された。
7. 平成 31 年度予算について（資料 50-08）
財務小委員会担当幹事より資料 50-08 に基づき、平成 31 年度決算について報告があった。夏期セミナー及び RPHA2019 については収支 0 を、部会賞として 4 件を想定した予算である旨報告があり、了承された。部会員より PHYSOR2020 の旅費の補助について確認があったが、開催時期が年度を跨ぐため、平成 32 年度予算になる予定との回答があった。
8. 平成 31 年度運営小委員会委員について（資料 50-09）
部会長より資料 50-09 に基づき、平成 31 年度運営小委員会委員の候補が紹介され、了承された。

（平成 31 年度上期分 審議及び報告事項）

【報告事項】

9. 第 51 回炉物理夏期セミナー開催計画（資料 50-10）
セミナー小委員会担当幹事より資料 50-10 に基づき、第 51 回炉物理夏期セミナーの準備状況について報告があった。「燃焼計算の基礎と実践」をテーマとして平成 31 年 8 月 5 日～7 日の日程で、宮城県にて開催される予定であり、講師の選任まで完了している。6 月初旬にメンバーリスト等で募集を開始する旨の紹介があった。
10. 炉物理の研究（部会報）の準備状況について（資料 50-11）
編集小委員会担当幹事より資料 50-11 に基づき、部会報の発刊状況について報告があった。2018 年度分は既に発刊済みであり、特集記事としてレジェンド（元 W 社 Y. A. Chao 氏）の記事が掲載されている旨の紹介があった。加えて、未発刊の第 68, 69 号についても、早々に発刊できる予定である旨の方向があった。
11. 日中韓炉物理会議 RPHA19 の HP 開設について（資料 50-12）
学術交流小委員会担当幹事(RPHA 担当)より資料 50-12 に基づき、RPHA19 の準備状況につい

て報告があった。ホームページを開設済みであり5月初旬には論文投稿の受付を開始する予定である旨の紹介があった。

12. 学会誌への連載講座の執筆について（資料 50-13）

副部長より学会誌への連載講座の執筆について報告があった。原子力学会からの依頼を受け、炉物理部会として連載講座を学会誌に掲載する予定であり、昨今の1Fでの状況も踏まえ「未臨界」をテーマに執筆する予定である旨報告があった。執筆者については、調整中であり今後依頼させて頂く予定にしており、積極的な協力への依頼があった。

以 上